
執事の殺人

後藤詩門

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

執事の殺人

【NZコード】

N5818E

【作者名】

後藤詩門

【あらすじ】

「主人様の殺害を決意した執事の私……でも事態は思わぬ方向へ

(前書き)

ホラー要素と時事問題入れたかったんですが……ぐだぐだになつてしまつた。orz

暑い夏の日だった。

私はいつものように、ご主人様のベッド脇に、ミネラルウォーターの入ったコップと睡眠薬を2錠置いた。
これでカタがつくはずである……

ご主人様の名前は高梨権十郎たかなじけんじゅうろう、52歳。食品会社を経営している。
何不自由しない大金持ち。

だが、そんな彼にも悩みがある。実はもう3年以上薬無しでは眠れない体質になっていたのだ。つまりは不眠症。

それもこれもアコギな商売を繰り返し、大勢の人間を苦しめた代償なのだろうと私は感じていた。

もう30年も彼に仕えている私には良く分かる。
権十郎は、それはそれは酷い経営者なのである。

法律すれすれの事は当然、平気でそれ以上の事も行なってきた。
やつてないのは殺人くらい。

そんな彼なので、夜眠れないでウンウン唸つてている様を見て、私はザマミロという気分だった。これまでには……

だけどそれだけじゃ駄目だ！

最近の私はそう強く感じる。

今回、彼のしでかした悪事は睡眠不足くらいで相殺されるほど軽くはないからだ。

彼はついにやってしまった。

そう……殺人である。

直接手を下した訳ではない。だが、それと同等の事はした。

それも一人や二人に対してではない。何千人もの罪のない一般市民に対してである。

彼のしでかした悪事、それは……食品偽装。

某国の鰻を浜名湖産と偽り大勢の人に販売したのだ。

しかも、その鰻には大量の発癌物質が含まれていたという。

彼は輸入した鰻の危険に気づきながら、そしらぬふりして売り捌いたのである。

何てやつだ！ その鰻を……私はスーパーで買つて食べてしまつたというのに。

許せん、絶対に許せん。

私は復讐を決意した。

実はご主人様の枕元に置いたコップには多量の睡眠薬を溶かしている。

合計20錠分もの薬である。人間がどのくらいの睡眠薬を飲めば死ぬものかは知らないが、これくらいあれば大丈夫だろう。

私は年甲斐もなくドキドキしてきた。

齢、80歳にして初めての殺人。プレッシャーに押しつぶされそうだ。

その時！

「うひ、ぐ、苦しい」

私の心臓が早鐘のように鳴り、脈が不定期に脈うつのが分かつた。

(「、これは？」)

間違いない、心臓発作だ。まずい、非常にまずい。私はこんな所で死にたくない。だが、胸は焼けるように苦しくサハラ砂漠を旅しているように乾ききっている。

「だ、誰か……み、水……水を……くれえ」

すると、ちょうど私のかすれる目に、なみなみと水が注がれたコップの姿が飛び込んでくる。

助かった。ご主人様の水だ。私は何も考えずにいつきに飲み干した。

そして……私の意識は急速に遠のいていく。

（そつ、そつか……睡眠薬……入れてたんだ）

胸の痛みは薄らいだ。そのかわりに猛烈な睡魔が襲う。

（も、もう駄目だ）

いまわの際に私は思った。

いつたい私はどちらの死因で死ぬのだろう。

心臓発作か？

それとも睡眠薬の多量摂取か？

心臓発作ならば問題はない。だが、睡眠薬だとすると……これは困った事になる。

何故ならこの睡眠薬入りミネラルウォーターは私が準備したもの。それを私は自分の意思で飲み干した。つまりこれは……自殺という事になるのだ。

息もたえだえながら私は一人焦る。

どうしてかつて？

だって私はカトリック。自殺は許されていないのだ。

それは神様への冒瀧、反逆の行為となる。
しかるにそれは……地獄行きということ。
嫌だ、地獄になんか行きたくない。

(どうか私の死が睡眠薬のせいじゃありませんように！)

私は久しぶりに神様に祈った。

結局、どうなったのかって？
私の死因は心臓発作だった。
じゃあ天国にいるのかって？
いやいや、いま私は地獄にいる。
どうしてかつて？

ふむ……まあ、簡単な事だが自殺も悪いが殺人も悪いってこと。
人の命を奪つておきながら自分は許されると考えるのは甘いのだ。
神様の目は節穴じやない。

えつ、お前は結局誰も殺してないじゃないか？
いやいや、そうじゃない。

神様の調べによると私の死因は心臓発作だが、人間の警察たちは
そうは思わなかつたのだ。

ご主人様の寝室で多量の睡眠薬を飲んで死んでいる私を、警察は
ご主人様が殺害したと断定したのだ。

あまたある余罪も不利に働き彼は死刑。
結果的に私は彼を殺したというわけ。
はあ、悪い事はできませんなあ。

今、ご主人様は何をしてるか知りたいですか？

もちろん、私と一緒に地獄にいますよ。

毎日、厭味を聞かされています。お前のせいだって。

死刑が確定して僅かに一年で執行されましたからねえ。

いやあ、今の日本の法務大臣は仕事が早いと地獄の鬼たちも誉めています。

ただ、死神たちには評判は良くありません。

えつ、何故かって？

そりゃあ……仕事を取られたわけですから。彼らにとつて人間の魂はちょうど車や船のガソリンのようなものみたいですね。それを人間の法務大臣が横取りしてるわけで……怒つてますよ、彼ら。

今度、死神組合が抗議デモで出漁（彼らは人間狩りをこう呼ぶ）を取り止めるそうです。まあ、2、3日ほどですけどね。

まったく、どこの世界も……狂つてますなあ。

(後書き)

そろそろ夏ホラー投稿用小説を書きたいと思つ今日一の頃。頭の中ではできてるんだけどなあ……

一〇〇からが長い。

はあ、土、田で書も上げたいものだな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5818e/>

執事の殺人

2011年1月20日15時39分発行